

第 14 回リーディングセミナー オーガナイザー報告書



氏名・学年	前川 直也・博士課程 2 年（獣医・感染症学教室）
開催日時/場所	2015 年 9 月 25 日 16:30/獣医学研究科講義棟 講堂
参加人数	学生 60 名、その他 19 名

講演タイトル	The Evolving Science & Clinical Application of Immunotherapeutics in Veterinary Oncology
講演者名	Dr. Philip J. Bergman
職名/所属/国	Director/Clinical Studies, VCA-Antech/USA (NY)

招聘経緯・理由	招聘理由 1. Dr. Bergman はイヌの腫瘍研究および臨床研究における第一人者である。臨床研究の講演を聴く機会はあまりなく、本セミナーはよい機会であった。 2. Dr. Bergman の専門である Comparative Oncology や Comparative Clinical Studies は、本リーディングプログラムの基本理念である One Health の目指すものとよく一致する。 3. オーガナイザー（前川）の研究に関連する分野であり個人的な興味があった。 招聘にあたって 招聘メールを送った際には全く面識はなかったが、講演にとっても前向きな返事をもらい、ちょうどアジア周遊（各地で講演）の予定が 9 月にあったため、そこに札幌訪問を組み入れてもらうことができた。
セミナー、質疑応答について	セミナー内容 現在までに行われた腫瘍に対する種々の免疫療法の臨床試験に関して、自身の開発したメラノーマワクチンを含め、原理から結果、考察を網羅し、今後の方向性までを論じた。 当日のプログラム進行 講演 60 分、質疑応答 15 分 質疑応答 臨床試験の詳細に関するものを中心に、しかし異分野の観点からの質問もあり、活発な議論が行われた。（日本人 2 人、留学生 2 人計 4 人から）
セミナー外の活動	・ 感染症学教室内のクローズド・セミナー ・ 付属動物病院の案内・見学 ・ セミナー後の歓迎会・交流会
反省点・感想等	当日のプログラム予定時間超過について 講演自体が充実した内容であり、また質疑応答も活発だったため予定時間（質疑込みで 60 分）を超過してしまったが、ディスカッションを続けたことは会場の雰囲気からは正しい判断であったように思う。Dr. Bergman はセミナーの質を高めることに意欲的であり、1 時間では時間が足りなかったことは講演内容からも明らかだった。講演内容について、また必要な時間については事前に講演者との調整・意思疎通が必要であると感じた。 セミナー運営を経験して 海外の先生との英文でのやり取りやセミナー運営は初めての経験であり、学部が多分多く決して完全ではなかった。先生方やリーディングオフィス、院生の先輩方の助言を受け、調整・作業をこなしていくことでなんとか無事日程を終えることができたが、いろんな人の支えなしでは成り立たないことを実感する機会となった。今回の経験は今後同様のセミナーを行うときのみならず、関連部局との連携や企画を行う際に貴重な体験として必ずや役に立つことであろう。過密なスケジュールの中来て下さった Dr. Bergman はもちろんのこと、お世話になった皆様方に厚く御礼を申し上げます。

